

[長崎県病院企業団通信]



ふくよか

2016秋号

■長崎県病院企業団本部
■平成28年10月発行

目次 CONTENTS

p2.....企業長より

「コンピュータがヒトを超える日」

p3.....話題の職員紹介

企業団職員 タヤけマラソンでも大活躍!?

p4.....特集① 自治体病院の未来を考える

長崎で開催された全国会議の様をお知らせ!

p6.....特集② 平成28年度上期 医業収入の状況

上期の医業収入について

p7.....病院TOPIX

壱岐病院の経営改善への取り組みとは?

p8.....Break Time

[季節のうつろい]

vol.
09

コンピュータがヒトを超える日

企業長 米倉 正大

21世紀は脳の時代と言われて16年がたった。電卓は私が大学に入学した約50年前に開発されたばかりで、教養の統計学で手回しの計算機を使ったことが懐かしい。1970年代の始めに脳外科医になり、脳波処理に多くの時間を費やしてきた私にとっては、コンピュータの発達の速さは感無量である。こういう私はコンピュータについては全くの素人で、言わば外野からヤジを飛ばしているような存在であるが、最近の人工知能の報道は、非常に興味のある話題である。

ヒトの脳機能とコンピュータを比較すると、記憶は海馬という側頭葉の深部で、計算は頭頂葉の表面近くで、言語能力はシルビウス溝の周囲で、視力とその形状の確認は後頭葉で行われ

る。これらいずれの領域でも、ヒトの脳はもうすでにコンピュータにかなわない状況となっている。しかし、コンピュータがまだヒトの脳を超えていない領域もある。それは、前頭前野の働きである。すなわち、いろいろな情報を統合して判断するという機能である。だが、そう思っていたら、コンピュータは十数年前にチェスの試合で人間を打ち負かし、最近では囲碁の名人を打ち負かすほどに進歩している。これは、コンピュータにディープ・ラーニングという手法を取り入れたからだという。コンピュータが囲碁の局面を見て、直感的に本質をつかむ大局観を備えたということである。ヒトの脳では、過去の記憶の蓄積を組み合わせることで総合的に判断し、決断をしている。コンピュータは、前頭前野の

機能、即ちディープ・ラーニングという手法をプログラムすることで、本当の意味の人工知能と呼ばれるようになったのである。

過去の膨大な記憶を忠実に取り込んで判断する人工知能は、正確な判断をするという点では、ヒトの脳をはるかに超える時代になっている。ただ、負け惜しみになるが、人間の過去の記憶の蓄積は、その人の好き嫌いや思い込みなどが作用して、意識的に記憶から消してしまったり、逆に非常に強調された記憶となって総合的判断に大きな影響を与えたりする。このような加減ともいえるヒトの脳の機能は、人工知能とは違った味のある結果をもたらすかもしれないのである。

昨年読んだ記事で、2020年代中に人工知能に取って代わられる仕事に、医療関係の仕事はかろうじて含まれていなかったもので、一安心と思っていたら、つい最近の報道で『人工知能がんを見抜く―適切な治療方法も助言』という見出しで、人工知能は医師の判断分野まで入り込んできたことを知った。看護や介護の領域の肉体的仕事がロボットに取って代わられるなど、今後、人工知能の医療への本格的な応用が急速に進みそうである。そう遠くない将来、人工知能を搭載したロボットは、私たち医療従事者よりも患者さんより強い精神的信頼関係を築く時代が来るのであろうか。ヒトの脳の持つ神秘的機能を人工知能が超える時間が2045年とも言われているが、そう遠いことではない。

突然ではあるが、ふと思いついた。有名な歌『心なき身にも哀れは知られけり 鳴立つ沢の秋の夕暮』と読んだ鎌倉時代の歌人西行法師のものあわれを、千年近く経た私たち日本人は理解できるが、果たして人工知能が理解できる日は来るのであろうか。

Vol.9

話題の職員紹介

今回は「五島列島夕やけマラソン」で活躍した職員と当日の様子をご紹介します！

平成28年8月27日(土)、「第30回五島列島夕やけマラソン」が開催されました。

コースについては、ハーフの部(男子は高校生～59歳までと60歳以上、女子は高校生～34歳までと35歳以上)と、5キロの部(男子は40歳以上、女子は高校生～35歳まで)があり、当日は両コース併せて2,924名のランナーが五島市内を疾走しました。

企業団病院の職員も多数参加するとのことでしたので、「スタート前に見つけることが出来れば写真撮影でも」と考えていましたが、現場の人の混みを見た瞬間諦めざるを得ませんでした。

沿道にもマスコミ関係者や多数の応援者があり、スタート時の写真撮影場所を確保するのも大変でしたが、何とかミッションはクリア？出来ました。

その後、当院医療救護班の写真撮影を済ませ、残るは選手の写真撮影のみですが、これが非常に難関(周りが暗い上、一塊の集団で走っていたら探すのは困難)で、結果的に数枚しか撮影することが出来ませんでした。

ハーフの部のレース結果ですが、総合優勝タイムは1時間11分48秒でした。

ちなみに、企業団職員でのトップは五島中央病院看護師の野口勇助さんで、タイムは1時間38分45秒という立派なものでした。

何はともあれ、参加されました企業団職員の皆さま、大変お疲れさまでした。

(取材・文 五島中央病院総務課長 柴田和昭)



企業団職員出場者数(ハーフの部)は、男性15名・女性18名 合計33名でした。
我こそはと思う方は次回ぜひご参加下さい！



五島中央病院
野口勇助
看護師

「ハーフの部」タイム：1時間38分45秒

今回で最高記録を更新しました。
定年まで走り続けます！



▲五島中央病院医療救護班

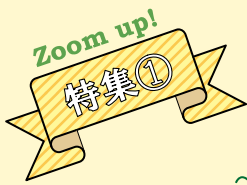


▲スタート直後の様子



▲本部 松井係長 庄崎課長補佐

レース後のビールと五島牛が美味しかったです！



自治体病院の未来を考える

～第15回 全国病院事業管理者・事務責任者会議が長崎で開催されました～

少子高齢化が進展するなか、地域医療を担う病院の今後のあり方について議論するため、8月25日～26日、全国から病院事業管理者など約180名が長崎に集いました。



1日目

平成14年に始まったこの会議は、病院事業に地方公営企業法を全部適用している約160団体をメンバーとしています。
長崎での開催は、平成17年の第3回に続き2回目となります。

鼎談「自治体病院のあり方と役割」

自治体病院は不採算医療や政策医療の担い手であり、地域の医療レベルを守る役割があります。これらを効率よく維持するため、規模の縮小や統合、民営化などを視野に入れながら存続していくことが求められています。



開会式



中村知事が駆けつけてくださいました

◀(写真左から)全国自治体病院協議会 遠見会長、全国病院事業管理者協議会 吉田会長、同 矢野名誉会長

懇談会

1日目の最後は懇談会。左の写真は中国の伝統芸能「変面」ショーです。一瞬で面を変える技法は国家機密なんだとか…



「地域規模による地域医療構想の考え方」

基調講演「急性期病床の機能分化と強化」 (産業医科大学 公衆衛生学教室 松田 晋哉 教授)



▲大中小規模地域3団体による地域医療構想の状況報告



《こんなお話でした》

- 少子高齢化と人口減少という社会環境下で、医療提供体制の再構築が求められている。
- 各地域・病院は、DPCデータなどによる推計値をもとに冷静に将来を考えることが求められている。

「自治体病院の改革」と「医師確保」について

基調講演「自治体病院改革と地域枠医師の活用」

矢野前企業長は、長崎県立3病院の改革に始まり、現在の企業団設立など多大な功績を残されました。

講演では、長崎県における病院改革の経緯と成果、長崎県医学修学資金貸与制度などを、苦労話を交えながら紹介されました。



長崎ならではの特色をもった医学修学資金貸与制度には、他県の管理者の方から様々な質問やご意見が寄せられました。

基調講演のあとは、自治体病院、特に小規模病院の再編や経営改善の取り組みと医師確保のむずかしさなどについて、4団体からご報告をいただきました。



上五島病院 八坂院長も登壇

地域枠として採用した医師にいかにか長く勤務してもらえるかについて、県の養成医である上五島病院の八坂院長にもご報告いただきました。

閉会式



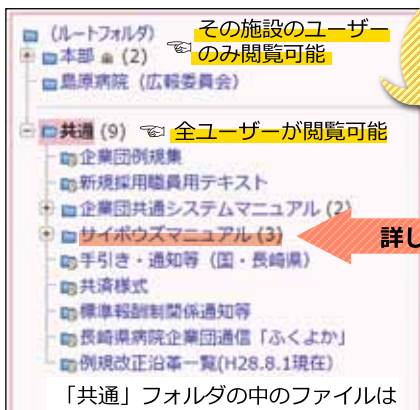
次期開催地である沖縄県の挨拶のあと、米倉企業長の閉会挨拶で終了となりました。



「サイボウズ」ではスケジュール管理、ユーザー間のメッセージ送受信やファイルの共有（大容量OK）などが可能です！ たとえばファイル共有の場合…



ファイル管理



詳しい使い方はコチラ！

「施設名」フォルダに院内でよく使う様式や文書などをアップロードすれば、院内で簡単にファイルの共有を行うことができます。

「サイボウズマニュアル」フォルダ内の「使用説明書（簡易）」をご覧ください。

「共通」フォルダの中のファイルは任意でダウンロード可能です

「サイボウズ」の積極的なご利用をお願いします！

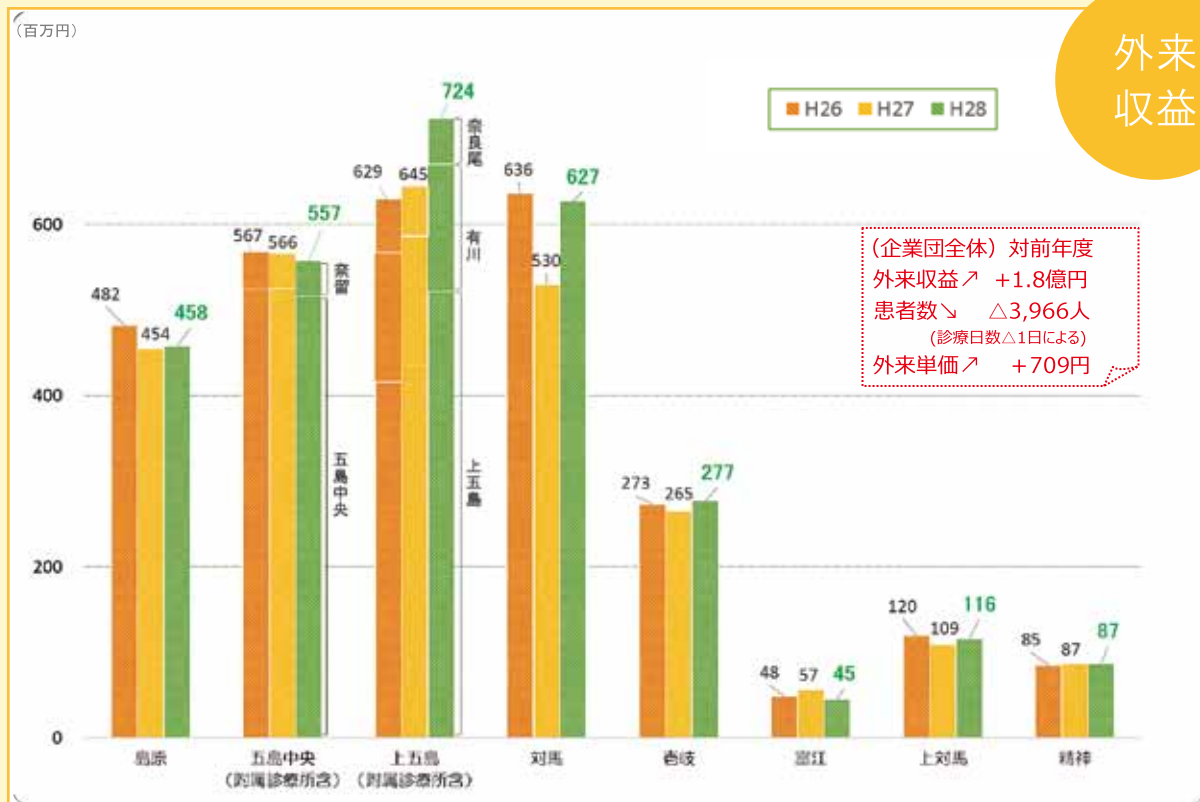
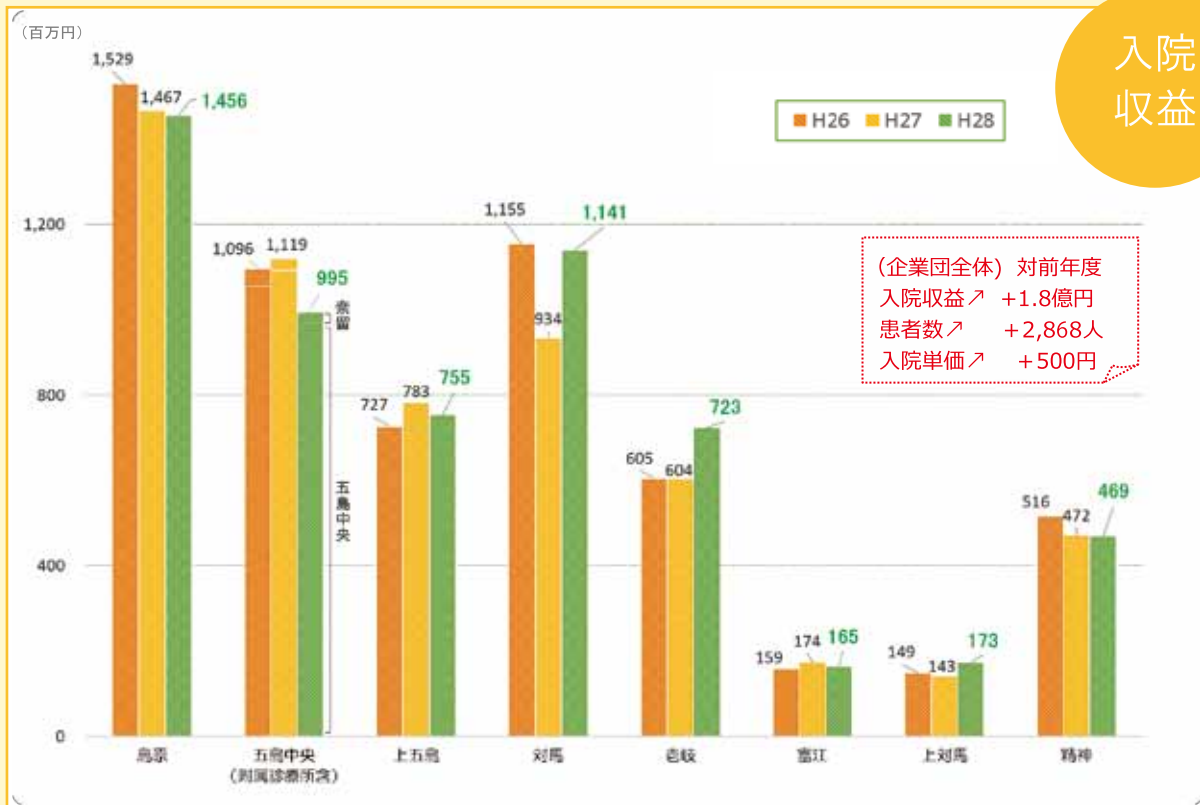
他にもこんなことができます😊

- ☑ 「個人フォルダ」でメッセージ交換
 - 相手（企業団職員に限る）がアカウントを持っている、メールアドレスを知らなくてもやりとりが可能です。大容量のファイル添付もOK！
- ☑ 「掲示板」でお知らせ
 - 現在、企業団全体と、院内の2種類がありますが、ご要望があれば部署単位や役職ごとにも作成可能です（システム管理者が対応します）。院内会議、親睦会の連絡などに使えます！



平成28年度上期 医業収入の状況

下の棒グラフは、平成28年度上期(4月～8月)の医業収入を過去2カ年の同期と比較したものです。



企業団全体では、昨年度と比較して入院収益で+1.8億円(+3.2%)、外来収益で+1.8億円(+6.5%)と好調です。しかし、医業費用は昨年度に比ベ+約6.0億円と悪化しており、経常収支で約2.4億円の赤字拡大となっています。このままでは、昨年度の経常収支△6.2億円が倍増する恐れがあります。



～ 長崎病院 ～ 経営改善の取り組み

Vol. 2

病院TOPIX

長崎県病院企業団の病院の様々な取り組みをご紹介します。
していきます。



前回の診療報酬改定で新設された「**地域包括ケア病棟**」を平成26年12月に開棟しました。開棟にあたっては、施設基準の要件を満たすため、診療点数の分析や患者シミュレーション等を行い、増収効果を数値化。全スタッフを対象に機能別病棟への転換方針を院長より伝える説明会を実施しました。



▲レスパイト入院は看護師・社会福祉士が連携して受入調整を行っています。レスパイト入院を主に受け入れている4階療養病棟では、患者さんが少しでも癒やされるよう手作りでドアに花木を飾り付ける工夫もしています。

看護部においては、「地域包括ケア病棟」の運用開始時から各病棟棟長、退院支援看護師、社会福祉士、リハビリスタッフ、医事係の多職種が連携した「**ベッドコントロール会議**」を毎日定時に開催し、退院予定報告や急性期病棟からの転棟調整等を行っています。これにより効率的なベッドコントロールが可能となり、**入院患者の確保に大きく繋がっています。**

また、今年度から在宅介護者の負担軽減を目的に「**レスパイト入院**」の受け入れを開始しました。まだ始めたばかりですが受入件数も増加傾向にあり、地域包括健康増進センターを窓口在宅医療・介護との連携強化に努めています。

これらの取り組みにより、**今年7月には1日平均入院患者数が対前年同月比20%(+25.7人)の増、地域包括ケア病棟の病床稼働率100.7%**となるなど病院経営に大きく貢献する結果となりました。

Point
レスパイト入院とは？
レスパイト (respite) とは、「一次休止」「休息」「息抜き」という意味です。
例えば、近親者の冠婚葬祭、介護者の病気・出産・旅行など家族の事情で在宅介護が一時的に困難となった場合に、医療保険を利用し、短期入院する仕組みをレスパイト (介護休暇目的) 入院といいます。

お疲れさまでした！

第38回長崎県地域医療研究会

10月8日～9日 in 長崎ブリックホール

住民医療の歩みとこれから～医療再編後の課題と展望～



特別講演

城西大学経営学部
マネジメント総合学科
伊関友伸 教授
「国の社会保障政策の動きと新公立病院改革ガイドライン」



シンポジウム

◀「医療再編後の課題と展望」

「DPC導入に向けて」▶



◆ 研究会の発表集は、企業団ホームページに掲載されます。
◆ 次回は平成29年9月30日・10月1日開催予定です。

Break Time : 「 季節のうつろい 」

凜とした冷気に包まれる朝、空気が乾燥したさわやかな風間、ちょっとだけ風の冷たさを感じる夕方。10月末から11月にかけては、一年のうちでもっとも過ごしやすい季節です。

もう過ぎ去った夏ですが、今年はとりわけ厳しかったですね。8月1カ月平均の、長崎市の最低気温、最高気温を平年と比べてみましょう。最低気温が平年の25.1℃に対して今年が26.2℃、最高気温が平年の31.6℃に対して今年が33.7℃と、それぞれ1.1℃、2.1℃高くなっています。平均ですから、1～2℃の差はかなりのものです。しかも、猛暑日（35℃以上）が8日もありました。

わが企業団本部が入居している旧日生ビル6階もひどいものでした。土日の閉めきった熱気が残っている月曜の朝、冷房が入る前は35℃を超えていることもあり、サウナ状態で汗が止まりませんでした。

日本の夏の厳しさは、鎌倉の時代から「家の作様は、夏を主とすべし。冬はいかなるところも住まる。暑きころ悪き住居堪えがたきことなり。」（徒然草第55段）と言われているとおりです。

そうは言いながら、冬になったらなつたで、寒さで体を動かすのもおっくうです。風呂あがりなどちょっと油断すると、すぐに風邪をひいてしまいます。「寒いのはいやだ。早く暖かくなってくれ。」との思いが募ります。「夏はいくら汗だくにはなっても風邪をひくことはないよなあ……。」などと愚痴ってしまいます。現金なものです。

こういった心境にぴったりの歌があります。そう、オフコースの『夏の終わり』です。

♪♪～夏は冬に憧れて 冬は夏に帰りたい～♪♪

地球規模での温暖化が問題になっていますが、IPCCという国連の組織の報告書によると、「1951～2010年に観測された温暖化（世界平均地上気温上昇）の半分以上は、温室効果ガス濃度の人為的増加に起因する可能性が非常に高い」とのことです。つまり、自業自得ということなのですね。

（文：副企業長 川良数行）

編集後記



広報誌を作る担当になって、私はまだまだですが、なんと「ふくよか」は創刊2周年となりました。沢山の方に貴重なお話を頂いたり、写真を撮ったり、選んだり……。ほんの数ページですが、いろいろな方の気持ちが詰まった大切な1冊です。

これからもその気持ちをお届けできるよう先輩たちにならって、私も精進してまいります。

（ふくよか編集担当）

ふくよか

表紙のはなし 矢野 右人 先生

当企業団の名誉顧問の矢野先生には8月25日 第15回全国病院事業管理者・事務責任者会議における基調講演で自治体病院改革と地域枠医師の活用について貴重なお話を頂きました。

平成28年10月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索